

友だちとのかかわりを深める道徳学習 ～動作化を中心とした表現活動を通して～

要約：

今日の現代社会は、国際化、少子高齢化、情報化、科学技術の発展などの面で、大きく変化をしてきた。このような社会の状況の中で、特に子どもの生活に関わる変化として考えられるものが、子どものコミュニケーション能力の不足、社会性の低下などの諸問題である。また、これらの変化の結果として注目されているのが、いじめや心の問題の増加であると考えられる。他者とともに過ごしていく中で養われていく力が不足しているのである。このことから、友だちとのかかわりをつくるという学校の特性を十分に生かし道徳教育の一層の充実を図る必要が求められる。本学級の子ども達は、自分自身に関する項目は、少しずつできることも増えてきていることもあり、道徳性アンケートの評価は高い。その一方で、幼児期の自己中心性がまだ残っているため、他者とのかかわりに関する項目の評価が低いことが分かった。この時期の子ども達は、自己中心性は残っているが、友達との関わりをくり返し体験していくことを通して、他者の立場を認めたり、理解したりする能力も少しずつ身についてくるようになってくる特性がある。以上のような実態から、友だちとのかかわり方を深めていくことは大切だと考え、本主題を設定した。そのために、以下のことに重点を置いて研究を進めていくことにした。

(1) 学習過程の工夫

学習過程の中で、3つの役割演技を行い、それぞれを次のように位置づける。

- ・状況把握のために、資料の「はじめ」の段階で動作化Ⅰを行う。
- ・心情の変化を掴ませるために、資料の「なか」の段階で動作化Ⅱを行う。
- ・価値のよさを感じさせるために、資料の「おわり」の段階で、動作化Ⅲを行う。

(2) 動作化の工夫

資料を3つの段階（「はじめ」・「なか」・「おわり」）に分け、それぞれの場面で、動作化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを行う。

- ① より子ども達が、演じやすくするために、絵などを使い場面の説明をしたり場面に応じた場の設定の工夫やお面などの教材の工夫をしたりする。
- ② 3つの動作化のうち、心情の変化をつかませる動作化Ⅱは、ペアで行い、全員が演じることで、より心情の変化を掴ませやすいようにする。

実践の結果、次のような成果（○）と課題（●）を得た。

- 動作化Ⅱで演じた後に、気持ちを発言させたり、吹き出しに書かせたりしていくことは、中心人物に同化して心情の変化をとらえて、気持ちを考える上で有効であった。
- お面や平均台、どんぐりなど教具を準備して、動作化Ⅰをおこなったことは、場面の状況把握を行っていく上で有効であった。
- 気持ちの変化にもっと気づかせていくためには、中心人物を子どもに演じさせるなどの工夫が必要である。
- より心情把握をしやすい動作化にしていくためには、資料に応じて活動の焦点化をおこなう必要がある。

キーワード： 友だちとのかかわり 動作化の工夫 学習過程の中での動作化の位置づけ

1 主題設定の理由

(1) 社会的要請・現代教育の動向から

今日の現代社会は、国際化、少子高齢化、情報化、科学技術の発展などの面で、大きく変化をしてきた。これらの環境が変化していく中で、少子化による体験の減少や氾濫する情報など、子どもを取り巻く環境の変化としては、望ましくないものも多い。

このような社会の状況の中で、特に子どもの生活に関わる変化として考えられるものが、子どものコミュニケーション能力の不足、社会性の低下などの諸問題である。また、これらの変化の結果として注目されているのが、いじめや心の問題の増加である。つまり、他者とともに過ごしていく中で養われていく力が不足しているのである。このことから、友だちとのかかわりをつくるという学校の特性を十分に生かし道徳教育の一層の充実を図る必要が求められる。

以上のような点から、本主題「友だちとのかかわりを深める道徳学習」を追求することは、意義深い。

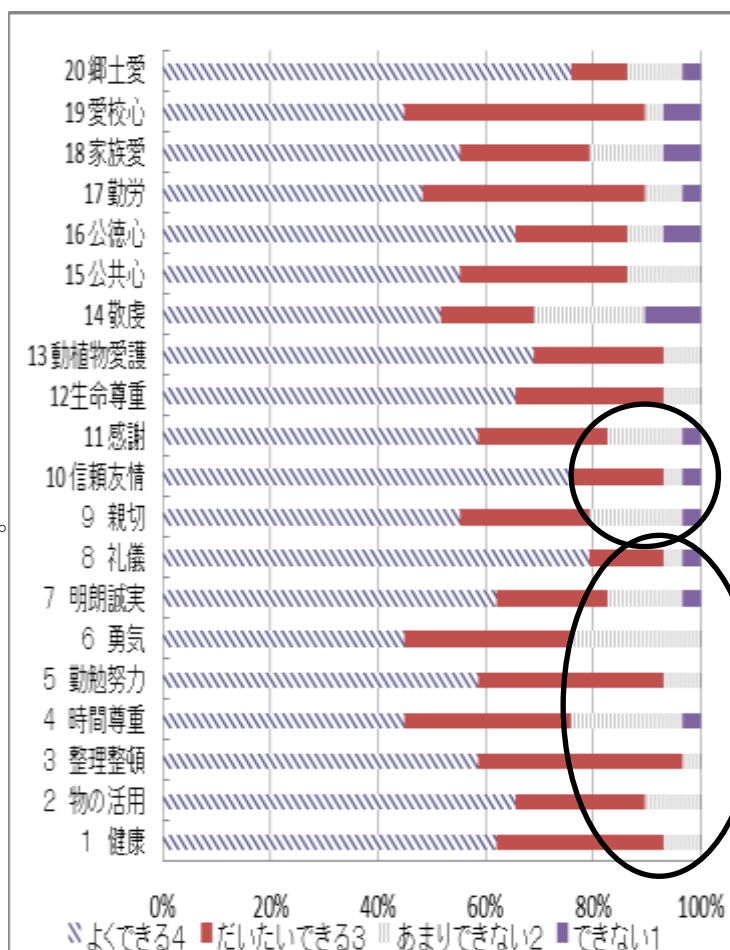
(2) 子どもの実態から

本学級は、10の保育園・幼稚園から入学をした子どもたちがいる。4月と比べて出身保育園・幼稚園の間にあった友達同士の壁は少しずつなくなりつつある。5月に実施した道徳性アンケートにおいて、「主として自分自身に関すること」に対する評価は高いことが分かる。しかしその一方で、「主として他者との関わりに関すること」に対する評価が低いことが分かる。

【資料1】

その原因は、発達段階として幼児期の自己中心性がまだ残っているからと考えられる。しかし、この時期の子ども達は、自己中心性は残っているが、友達との関わりをくり返し体験していくことを通して、他者の立場を認めたり、理解したりする能力も少しずつ身についてくるようになってくる特性がある。

以上のような実態から、友だちとのかかわり方を深めていくことは大切だと考え、本主題を設定した。



【資料1 5月に実施した道徳性のアンケート結果】

2 主題の意味

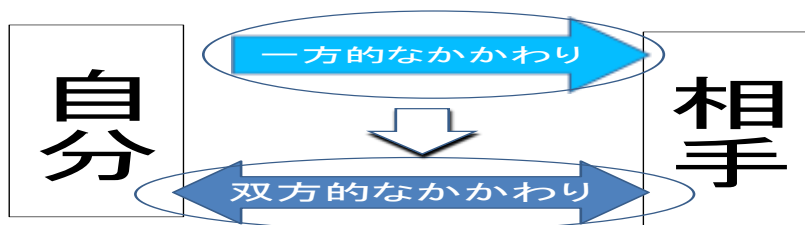
(1) 「友だちとのかかわりを深める」について

① 「友だちとのかかわり」とは

「友だちとのかかわり」とは、学習や遊び、生活などを通して、同じ時間や場所を共有し、ともに活動を行うことである。また、この主題においては、他者の立場に立って考え、行動することである。

② 「友だちとのかかわりを深める」とは

「友だちとのかかわりを深める」とは、他者の立場に立って考え行動するという一方的なかかわりからさらに、互いに相手の立場に立って考え、思いやりの気持ちを持つこと、互いを理解し、信頼し、助け合う関係つまり、双方向的なかかわりへと変わっていくことである。【資料2】



【資料2 友だちとのかかわりを深めるとは】

(2) 「動作化を中心とした表現活動」について

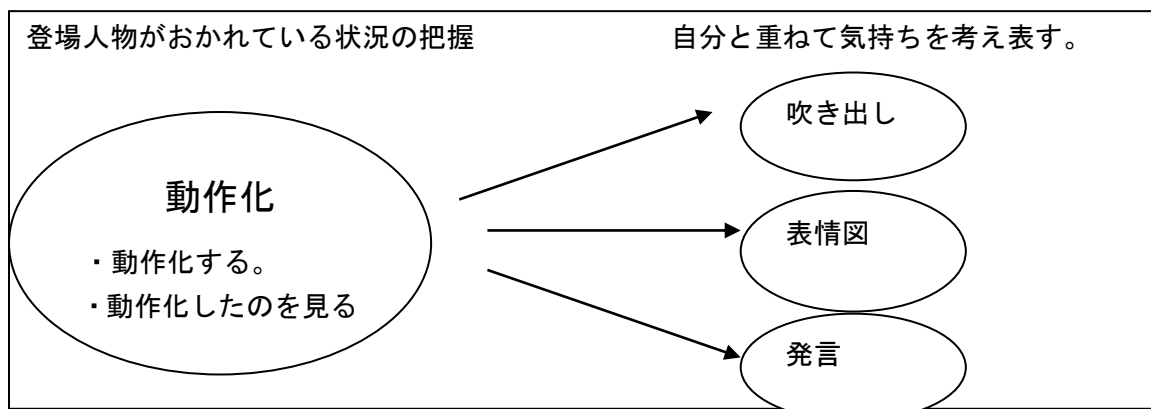
① 「動作化」とは

教材に描かれている場面を動作によって再現させ、よりの確に人物が置かれている状況を捉えらせる技法のことである。動作化には、大きく2つの視点があると考えられる。1つは、実際に動作化をして気持ちを確かめる側。もう一つは、動作化している様子を見て、客観的に捉える側である。

② 「動作化を中心とした表現活動」とは

動作化で捉えた考えを言葉や発言、図などで表す活動のことである。つまり、動作化を通して、人物が置かれた状況を捉えた後、その人物の立場に立って、思いや考え、気持ちを吹き出しに文章で表したり、表情図などで気持ちを表したりすることである。

【資料3】



【資料3 動作化と他の表現活動の関係を表した図】

3 研究の目標

資料をもとに道徳的価値を見出すための動作化を本時のどの段階に位置付ければ友だちの立場に立って考え、友だちとのかかわりを深めることができるようになるか究明する。

4 研究の仮説

資料の「なか」の場面で、動作化を行った後、登場人物の心情を吹き出しなどで表現させれば、人物に共感するであろう。そして、自分自身の生活を振り返っていくことで、相手のことを考えて行動できる子どもが育つだろう。

5 仮説検証の内容と方法

本仮説に取り組むための具体的方途として、以下の内容や方法を決め、研究に取り組むことにした。

(1) 学習過程の工夫

学習過程の中で、3つの役割演技を行い、それぞれを次のように位置付ける。

- ・状況把握のために、資料の「はじめ」で動作化Ⅰを行う。
- ・心情の変化をつかませるために、資料の「なか」で動作化Ⅱを行う。
- ・価値のよさを感じさせるために、資料の「おわり」で、動作化Ⅲを行う。

(2) 動作化の工夫

資料を3つの段階（「はじめ」・「なか」・「おわり」）に分け、それぞれの場面で、動作化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを行う。

- ① より子ども達が、演じやすくするために、絵などを使い場面の説明をしたり場面に応じた場の設定の工夫やお面などの教材の工夫をしたりする。
- ② 3つの動作化のうち、心情の変化をつかませる動作化Ⅱは、ペアで行い、全員が演じることで、より心情の変化を掴ませやすいようにする。

6 研究の計画の概要

月	研究計画
5	・研究主題の設定
6	・実態調査とその分析 ・論理研究 ・研究の仮説の設定
7	・論理研究 ・研究の内容・方法の検討 ・研究構想案作成
8	・論理研究 ・検証授業Ⅰに向けての指導計画の作成
9	・検証授業Ⅰの授業準備
10	・検証授業Ⅰの実施 ・検証授業Ⅱに向けての指導計画の作成
11	・検証授業Ⅱの授業準備 ・検証授業Ⅱの実施
12	・データ分析のまとめ ・研究の整理と考察
1	・研究紀要作成
2	・研究報告会

7 研究の構想図



8 指導の実際と考察

(1) 実践1（10月実施）

第1学年 主題名 だれにでも優しく 価値項目2ー(2) 思いやり・親切
資料名 はしのうえのおおかみ (文溪堂)

① 本時の主眼

- 身近にいる人に温かい心で接しともに気持ちよく生活していこうとする心情を育てることができるようにする。
- 自分より小さい動物にいじわるをするおおかみや自分よりも大きいくまに優しく抱きかかえられたおおかみの気持ちを吹き出しに書いたり、動作化をして表現したりすることで進んで親切にすることの大切さに気づくことができるようにする。

② 展開

	学習活動	支援の有効性（○効果、●課題）
つかむ	<p>1 これまでに親切にされた経験を話し合わせた。</p> <p>T: これまでに友達から親切にしてもらったことはありますか。</p> <p>C: けがしたとき保健室に連れて行ってもらった。</p> <p>本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">親切にする心をふくらまそう</div>	<p>●親切な行動がうまく子ども達の中で浮かばず、発言に時間がかかった。事前に子ども達の親切な行動を聞き、提示させると、どんな行動が親切なのかが子ども達にとって理解させやすかった。</p>

つ 2 資料「はしのうえのおおかみ」を読み、おおかみの
く 行動や心情を読み取っていった。

る ○小さな動物を通せんぼするおおかみはどんな気持ちだ
ったか全体での動作化を行い考えさせていった。

(動作化Ⅰ)

T：おおかみはどんな気持ちで通せんぼしていただろう。



動作化Ⅰの手順

- 1 教師がおおかみ、子どもが動物役をして橋の上を渡る。
- 2 演技後に教師が演じたおおかみの気持ちを発言させる。



【資料4 授業で使ったお面】

おおかみの気持ちは

- ・いばっている。
- ・いじわるがたのしいきもち。

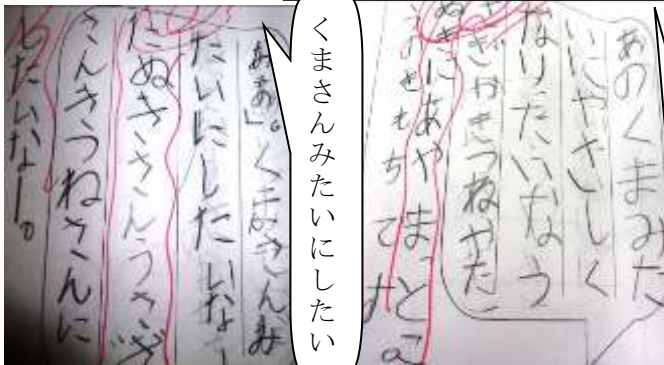
○くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみはどんな
気持ちかを考えさせていった。(動作化Ⅱ)

T：おおかみは、どんな気持ちでくまの姿をいつまで見
ただろう。



動作化Ⅱの手順

- 1 模範の動作化を行い、動作化の仕方を確認する。
- 2 ペアでくまとおおかみ役に分かれて役割演技を行う。
- 3 役を交代して演じる。
- 4 吹き出しにおおかみの気持ちを書く。



【資料5 動作化Ⅱ後の子どものノート】

○ペアでおおかみの気持ちを全員が演じた後、すぐに気持ちを吹き出しに書かせたことは、くまに
出会い気持ちがかかったおおかみに子ども達が同化し、そのときの心
情を考える上で有効であった。

●動作化Ⅱでくまの気持ちの変化を考えさせていったときに、なかな
か考えがつかれない子の姿がみられた。模範演技をする時に「いつま
でもいつまでも見ていました」という文章に着目させ、いつまでもくまを
見ているおおかみの気持ちが分かるように表現させる必要があった。

くまさんみたいになりたい

○おおかみは、どんなことを考えてうさぎたちを渡してあげているのか考えさせていった。(動作化Ⅲ)

T：おおかみは、どんな気持ちで動物たちを渡してあげたでしょう。



動作化Ⅲの手順

- 1 教師がおおかみ、子どもが動物役をして橋の上を渡る。
- 2 演技後に教師が演じたおおかみの気持ちを発言させる。

- ・もっとつづけていきたい。
- ・いいきもちになる。
- ・うれしい。

T：親切にするとどんな気持ちになるかな

C：しんせつにした人もされた人もうれしくなる。

親切にすると、自分も相手もうれしい気持ちになる。

生 3 親切についてこれまでの自分をふり返った。

か T：友達に親切にしたことはありますか。

す かえりに雨がふってきたときに、かさがなくてこまっ
ているともだちを見ました。ぼくは、かさの中に入れて
あげました。

ふ 【資料6 自分の生活をふり返った児童のノート】

か 4 心のノートを活用し、本時の学習を振り返って学習
め のまとめをおこなった。

る

○動作化Ⅲで教師が笑顔でおおかみ役を演じ、動物役の子ども達を渡すことは、親切にするよさにひたるおおかみの心情に子ども達が気づく上で有効であった。

○心のノートに掲載されている話を紙芝居にして読み聞かせをしていくことは、子ども達に親切にした時のうれしい気持ちに気づかせる上で有効であった。

③ 実践1の考察

○ 成果

- ・平均台を使うなどして、場面の状況を再現していくことで、読み取りが苦手な子も把握をすることができた。
- ・動作化Ⅱで、おおかみの心情に同化させた後に吹き出しに気持ちを書かせていったことは、親切にするくまに出会い、気持ちが変わるおおかみの気持ちを捉えさせる上で有効であった。

● 課題

- ・動作化Ⅱで心情把握をしやすいするために、文章に立ち止まらせ、気持ちの伝わる体の動きを考えさせる必要があった。
- ・動作化で教師が中心人物のおおかみを演じてしまったため、うまく動作化を通しておおかみの気持ちを把握することができない子たちがいた。中心人物は、子どもが演じる必要があった。



(2) 実践2 (11月実施)

第一学年 主題名 ともだちをおもうころ 価値項目2-(3) 友情・助け合い
資料名 くりのみ (学研)

① ねらい

- 困っている友達のことを思い、進んで助け合おうとする心情を育てることができるようにする。
- どんぐりを分け与えたくないと思うきつねやくりのみを分け与えたいうさぎの優しさに感動するきつねの気持ちを動作化で表現したり、吹き出しに書いたりすることで、身近にいる友達と互いに助け合うことよさに気づくことができるようにする。

② 展開

	学習活動	支援の有効性 (○成果●課題)
つ か む	<p>1 これまで友達と協力して取り組んだ経験を話し合い学習のめあてをつかんでいった。</p> <p>T: 今までにどんなことを友達と一緒に頑張ってきましたか。</p> <p>C: クラスのともだちとながなわとびをしたときに、みんなでたくさんとべるようにおうえんしました。</p> <p>本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 友だちと仲よくなる心を見つけよう </div>	 <p>【資料7 導入で提示した挿絵】</p>
つ く る	<p>2 資料「くりのみ」を読み、きつねの行動や心情を読み取っていった。</p> <p>○最初の挿絵を見て、きつねとうさぎはどんな状況にあるのか役割演技を通して確かめていった。(動作化I)</p> <p>T: きつねとうさぎはどんな友達?</p> <p>C: なかのいいともだち</p> <p>T: 2匹は何をしているのだろう</p> <p>C: えさをさがしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動作化Iの進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 挿絵や紙芝居から把握したことを出し合う 2 出てきた状況を教師(きつね)、子ども(うさぎ)を演じ、場面の状況ときつねやうさぎの気持ちを確かめる。 </div> 	<p>○挿絵を提示して考えさせたことや子ども達が発言したことを役割演技で再現することは、子ども達にきつねとうさぎが仲のよい友達であることやお腹がすいてえさをさがしているという状況を把握させる上で有効であった。【資料7】</p> <p>●役割演技が台詞の棒読みになっていたため、演技前に、寒い・お腹がすいたという場面の状況や登場人物の気持ちをどう表現するか確かめる必要があった。</p>
	<p>【資料8 動作化Iの様子】</p> <p>○きつねがたくさんどんぐりを見つけた時の気持ちを考えさせた。</p> <p>T: どんぐりをたくさん見つけたときのきつねはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>C: やった。おなかいっぱい食べられるぞ。</p> <p>○どんぐりをかくすきつねの気持ちを考えさせていった。</p> <p>T: どうしてきつねはどんぐりを隠したのでしょうか。</p>	

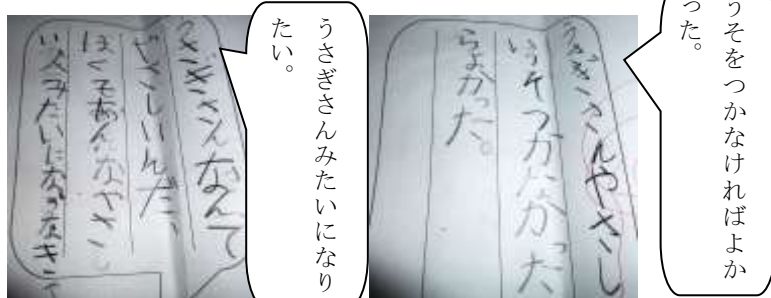
C：もったべれるように、ほかの人に見つからないように
 ○涙を流したきつねの気持ちを考えさせていった。
 T：涙を流した時、きつねはどんな気持ちだったでしょう。
 (動作化Ⅱ)

動作化Ⅱの進め方

- 1 教師(きつね)、子ども(うさぎ)に分かれて、役割演技の模範を行う。
- 2 ペアーで分かれて行う。



【資料9 動作化Ⅱでの子どもたちの様子】



【資料11 動作化Ⅱをおこなったあと、子どもの書いたノート】

友だちのことを考える心を持つと、自分も友だちもうれしくなる。

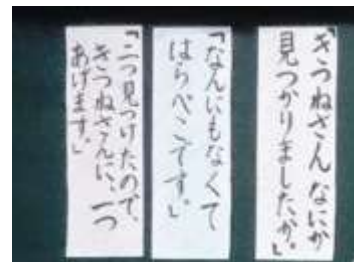
3 友達を助けたことについてこれまでの自分をふり返った。
 ぼくは、せいかつでおちばがあまりあつまらなかったとも
 だちを見て、ぼくのあつめたおちばをわけてあげました。
 ありがとうといわれて、うれしかったです。

【資料12 子どもがノートに書いたふり返りの文】

4 教師の話聞き価値を深めていった。

●気持ちの変化をとらえさせたり、子ども達の演技の中で気持ちを表現させたりするために、模範で演じたときに、きつねとうさぎの会話に着目させ、声の大きさ・早さ・間の開け方など気持ちが分かる台詞の言い方の工夫を示す必要があった。

○板書にきつねを青、うさぎを赤に台詞を色分けてして掲示することは、台詞を確認しながら役割演技をするのに有効であった。【資料10】



【資料10 掲示した台詞カード】

○助け合うことで互いにうれしい気持ちになることに気づかせる上で子ども達がクラスで取り組んでいた長縄跳びの話を題材にすることは、有効であった。

生
か
す
ふ
か
め
る

③ 実践2の考察

○ 成果

・動作化を行った後に、吹き出しに気持ちを書かせることで、考えた気持ちを書くことができていた。

● 課題

・動作化Ⅱで、気持ちの変化をとらえさせたり、子ども達の演技の中で気持ちを表現させたりするために、模範で演じたときに、きつねとうさぎの会話に着目させ、声の大きさ・早さ・間の開け方など気持ちが分かる台詞の言い方の工夫を示す必要があった。

8 研究のまとめと今後の考察

(1) 全体考察

本研究では、5月の道徳性アンケート結果と12月の道徳性アンケート結果の比較から、全体考察を行った。

【資料13, 14】今回の実践で取り上げた「信頼・友情」と「親切」を見ていくと、「信頼・友情」は「4」「3」の評価の割合が増えたが、「親切」の変化は、ほとんどないことが分かる。この結果から実践での様子を振り返って見ると、まず、いじわるをするおおかみや困っている動物たちの気持ちをしっかりと把握した実践①の動作化Ⅰのような子ども達の姿に見られた。このことから、状況把握をしやすくするために行った平均台やお面などの手立てが有効であったということが分かる。また動作化Ⅱの後に、吹き出しからはみ出しておおかみの気持ちを考えて書いている子や考えた気持ちに理由付けをしている子の姿が見られた。この子ども達の姿から、資料の「なか」で行ったペアでの動作化や動作化の後に吹き出しに、気持ちを書かせたことは、心情を深く考えさせていく上で有効であった。

しかしその一方で、実践②の動作化Ⅱのように動作化での会話が棒読みになってしまい、演じている子も、見ている子たちの中にもうまく中心人物の心情の変化に気付けないでいる姿も見られた。動作化を行う工夫として、資料の内容を分析し、内容に応じて、動作や言葉にといた活動を焦点化させることで、より心情変化を捉えやすい動作化になると考えられる。

(2) 研究の成果と課題 (○ 成果 ● 課題)

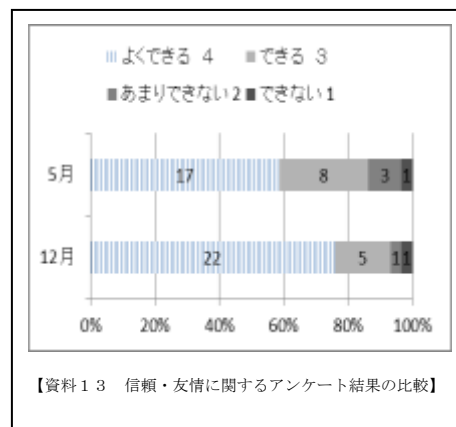
(子どもの姿の成果と課題)

- 動作化Ⅱで演じた後に、気持ちを発言させたり、吹き出しに書かせたりしていくことは、中心人物に同化して心情の変化をとらえて、気持ちを考える上で有効であった。
- 気持ちの変化にもっと気づかせていくためには、中心人物を子どもに演じさせるなどの工夫の必要がある。

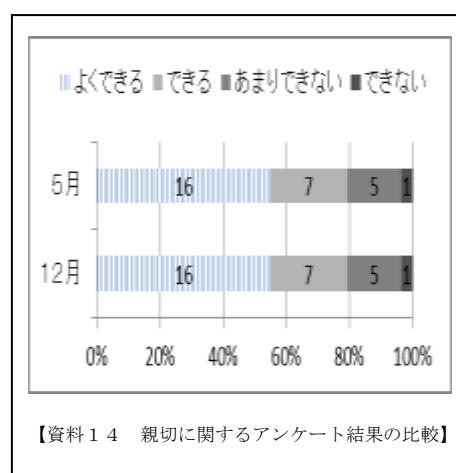
(教師の指導の成果と課題)

- お面や平均台、どんぐりなど教具を準備して、動作化Ⅰをおこなったことは、場面の状況把握を行っていく上で有効であった。
- より心情把握をしやすい動作化にしていくためには、資料に応じて活動の焦点化をおこなう必要がある。

＜参考文献＞ 小学校学習指導要領解説 道徳編
福岡県教育センター 指導案データベース
福岡県教育委員会 道徳教育ハンドブック
平成23年度 小郡市・三井郡教育研究所研究紀要



【資料13 信頼・友情に関するアンケート結果の比較】



【資料14 親切に関するアンケート結果の比較】